

1.10 大学図書館における機構改革

立命館大学びわこ・くさつキャンパス教学部門次長

郷端 清人

1. 大学を取り巻く状況

- (1) 国際化（グローバル化、国際連携、国際競争力の強化）
- (2) 情報化（大学の諸活動の IT 化対応）
- (3) 社会の急速な変貌（社会ニーズに対応した教育・研究の高度化、大学の有様？）
- (4) 大学の危機（少子化、定員割れ、経営問題）
- (5) 大学間の競争と戦略化（個々大学の優位性の取組み）
- (6) 産官学地の連携（リエゾン、コンソーシアム、産学間協定、ボランティアなど）
- (7) 国家政策のスピード化（独法化、競争的教育・研究資金の拡大、構造改革）

2. 大学図書館の課題

- (1) 学術情報のデジタル化（インターネットの進展）
- (2) 研究の高度化
- (3) 教育の多様化
- (4) 図書館サービスの拡大と高度化（大学図書館の役割見直し）
- (5) 大学情報システム部門（大学の IT 化）と図書館の関係
- (6) 大学図書館の管理・運営（経費の頭打ち、資料費の高騰、図書経費の見直し）
- (7) アウトソーシングの拡大
- (8) 図書館コンソーシアムや大学コンソーシアム
- (9) 外部資金の獲得など

3. 立命館大学における機構改革について

3.1 経過

(1) 第1段階（1993年 - ）計算機センター、事務システム部門、図書館のシステム部門の統合

総合情報センターの設置

教育研究システム課、事務システム課（計算機センターの廃止）

(2) 第2段階（1998年 - ）総合情報センターと図書館の統合

5課2分室体制

< 京都キャンパス >

- ・ 図書館部門（情報管理課、衣笠情報サービス課）
- ・ 情報システム部門（教育研究システム課、事務システム課）

<びわこ・くさつキャンパス>

- ・ 図書館部門（BKC情報サービス課）
- ・ 情報システム部門（教育研究システム課分室、事務システム課分室）

（３）第３段階（２００１年 - ）課の統合再編

３課 １分室体制

<京都キャンパス>

- ・ 図書館部門（衣笠メディアサービス課）
- ・ 情報システム部門（情報システム課）

<びわこ・くさつキャンパス>

- ・ 図書館部門（BKCメディアサービス課）
- ・ 情報システム部門（情報システム課分室）

（４）第４段階（２００５年 - ）図書館部門の再編

前半期（アウトソーシングの拡大）

- ・ 専任職員 30名 25名
- ・ 契約職員 14名 9名

後半期

<図書館部門>（課の統合）

- ・ 衣笠メディアサービス課、BKCメディアサービス課
ライブラリーサービス課（２００５年１０月設置の案）
- ・ 専任職員 25名 17名
- ・ 契約職員 9名 5名

３．２ 立命館大学における機構改革の視点

- （１）情報化が進展してくるなかで、図書館のサービスを拡大・高度化していくためには、情報システム部門（大学の計算機センター、事務・教学システムおよび視聴覚関連の部門）との密接な連携が必要となってきた。
- （２）情報システム部門においては、それまでのハードの整備・運営・管理に留まらず、コンテンツの提供あるいはそのためのシステム構築に重点が移ってきた。
- （３）大学経営の視点から、大学全体の情報システム資源の有効活用および重複投資の回避、大学のIT化を睨んだ総合的なシステム構築、またセキュリティ対策を考慮したシステム構築の必要があった。
- （４）上記に示したような大学の総合的なシステムを構築していくためには、図書館が単独ではできない。

- (5) また、大学の総合的なシステムを構築していくためには、図書館システムおよび教育・研究支援システムや事務管理システムの開発・管理・維持・運用を担う部隊の統合化（高度な人材を安定的に確保・維持するため アウトソーシングの導入とそれの効率的・合理的なシステム管理）をはかる必要があった。
- (6) 情報化社会の急速な発展に伴って大学改革のスピード化が増し、それに呼応した学術情報システムを開発・運用していくためには、組織を超えた調整が必要となってきた。組織ごとに個別のシステム構築をしていたのでは、迅速なシステム対応が不可能になってきた。
- (7) ユーザーサイドの立場から、大学全体の情報システムはワン・ストップ・サービスが理想であり、情報化が進むにつれてサービスの高度化を求める要求が高まってきた。（総合システムの構築によって、組織の壁をなくす）
- (8) 図書館を取り巻く環境（NACISISの誕生、図書・雑誌を供給する企業側の変化、学術情報データベースの高度化・多様化など）に迅速に対応する必要があった。

4．諸統計の紹介

- (1) 図書館部門
- (2) 情報システム部門

5．最後に（新組織を発展させるために）

- (1) 組織における目標・政策を一致させる（リーダーシップの重要性）。
- (2) 組織の硬直化を防ぐ（Free、Flat、Flexible型組織の構築）。
 - ・ 図書館部門、情報システム部門の連携強化
 - ・ 部門内の連携強化
- (3) 専任職員のより高い専門スキルの必要性和マネージメント力量の向上をはかる。
 - ・ 法人の戦略を意識したマネージメント
 - ・ 多様な人材（多様な雇用形態）のマネージメント
- (4) 企画・立案、実行、評価を迅速に、確実に進める。
 - ・ 組織を活かしての迅速な事務処理
 - ・ 組織を活かしての大胆な企画・立案・実行
- (5) サービスの拡大・高度化を常に意識する。
- (6) これまでの概念にとらわれず、大学図書館の役割を発展的に進める。
 - ・ 大学教育支援への積極的な係わり
 - ・ キャリア支援への積極的な係わり
- (7) 新組織の重要な役割を推進する。

- ・ 情報化推進機構
 - ・ 教育 IT 化の推進
- (8) 適材適所における外部人材の活用をはかる。
- ・ 学生の活用
 - ・ 多様な外部人材 (アウトソーシング) の導入

以上

< 参考文献 >

(1) 郷端清人 “ 大学の情報化が職員をどう変えるか ” 『大学職員ジャーナル』 1999 年度版

(2) 田中康雄 “ アウトソーシングを活用した大学図書館運営 ” 『大学図書館雑誌』 97(3), 2003.3, pp159-161